

地域ネットワークニュース

～9月の勉強会のお知らせ & 8月の勉強会報告～

第143回地域ネットワーク勉強会



精神障害(統合失調症) を正しく知ろう

9月8日(火) 19:00～
保健・福祉会館 研修室

現在、統合失調症の発症率は100人に1人といわれるほど身近な病気となっています。その症状には個人差がありますが、主症状には、実際には存在しない声や音が聞こえる幻聴やあり得ないことを信じ込んでしまう妄想、頭の中が混乱して考えがまとまらなくなる思考障害、興奮症状等といった「陽性症状」や、感情表現が乏しくなったり、ひきこもったりするなど意欲が減退する「陰性症状」が現れます。

統合失調症は、早期に治療につなげることで、病気の症状や障害の程度が軽症化する場合があります。また、再発を予防するためには継続的な受診と適切な服薬管理が重要となります。

しかし、病気の症状として朝起きられないことを「怠けている」と思って周囲が厳しく対応してしまうことや、薬は身体に良くないと服薬を中断させてしまうことなど、本人の苦しさや生活のしづらさについて周囲の理解が得られず、本人の孤独やつらさを助長させ、結果的に回復が遅れたり、再発のきっかけになってしまうことも少なくありません。

統合失調症等を抱える精神障害者が地域で安心して暮らしていくためには、保健・医療・福祉の連携によるサポートと合わせて、家族や地域住民の方々の正しい理解と協力が不可欠です。

そこで、今回の勉強会では、NHKより貴重なビデオをお借りし、統合失調症の症状や治療、再発予防について基本的な理解を深める勉強会を開催します。ふるってご参加下さい。

第142回地域ネットワーク勉強会 報告 平成21年8月21日開催 <参加者84名>



発達障害児の理解とサポート

～一人ひとりの発達に応じた支援～

茨城県発達障害者支援センター 上岡勇二氏(写真右)

NPO法人ユーアンドアイ

児童デイサービス「ぱれっと」 木島新也氏(写真左)

第142回地域ネットワーク勉強会は、2部構成で開催しました。

第1部の上岡氏は「発達障害における成人期の支援から見てきたこと」。第2部の木島氏は「ぱれっとでの取り組みを通じた特性を活かした支援内容」。

発達障害の理解を深めるとともに、実際の現場で取り入れている支援内容を事例を交えて分かりやすくお話し頂きました。

お二人の講話の中で、共通したキーワード「共通の理解と家庭・外部機関の連携」がありました。その当事者の情報を共有し、幼児期から成人期にかけてその時、その場に見合った支援を考え、次につないでいくこと、ライフステージに応じた支援が必要であることを、二人の講義を通じて考える機会となりました。

